

# 難落<sup>らい</sup>蓄性を有するスイートピー新品種「さくやひめ」

田村 瑞紗

宮崎県総合農業試験場 花き部

## 1. はじめに

スイートピーは、多彩な花色と柔らかな花弁、そして芳香を持ち、冬から春にかけて花束やアレンジメントに切り花が利用されている。国内におけるスイートピーの切り花営利栽培は、本県をはじめ、岡山県、兵庫県、神奈川県などの冬期晴天日の多い太平洋沿岸および瀬戸内地方で盛んである。

宮崎県は、国内スイートピー生産量の約5割を占める国内1位の生産地で、100品種以上が栽培されている。宮崎県総合農業試験場では、1989年（平成元年）に品種育成を開始し、主に交雑育種法を用いて、これまでに23品種を育成してきた。当初は県独自の新規花色を追求し、宮崎県を代表する花弁が複色の春咲き性品種「式部三姉妹」を育成するとともに、作業性の観点から、巻きひげがなく作業省力性に優れる「ムジカシリーズ」、品質向上の観点から、通常の品種より日持ちが1.5～2倍優れる良日持ち性品種の育成を行ってきた。

近年では、連続した曇雨天による落蓄や、定植初期の高温による奇形の発生が課題となっており、気候変動に強い品種育成の需要が高いことから、難落蓄性や耐暑性を有する品種の育成に取り組んでいる。

今回は、難落蓄性品種として、2022年に「さくやひめ」を新たに育成したので紹介する。

## 2. 育成経過

「さくやひめ」は、2010年春に宮崎県総合農業試験場において、花色がピーチ色の「宮崎サニーピーチ」を子房親に、花色が淡ピンク色の難落蓄形質を有する「桜川」を花粉親として交配を行った。その後、後代において自殖と選抜を繰り返し、F<sub>2</sub>世代で固定した。

2019年～2021年に生産者は場で適応性試験を行ったところ、その能力および適性も優れていたため、2023

年に登録出願し、2023年7月19日に出願公表されている（出願番号36706号）。

## 3. 品種の特性

「さくやひめ」の花色はスイートピーの中でも需要が高いピーチ色であり、出荷が天候に影響されにくい品種となることから、本品種に対する産地からのニーズは高い。

主な特性を表1に示した。対照となる基準品種として親品種である「桜川」および「宮崎サニーピーチ」を用いた。草型は高性、節間長は長、花形はウェーブ、花径は中である。旗弁および翼弁の中央部の花色はともに淡黄ピンク（日本園芸標準色票（JHSチャート）No.1002）で、1花房当たりの花数は3～4輪、開花習性は春咲き性である。

9月上旬に播種する作型で、28日間の種子冷蔵を行った場合、10月中旬に発蓄し、11月下旬から収穫可能となる。切り花本数は1株当たり31本、出荷本数は27本であり、営利栽培向け品種として十分な収量である。

基準品種よりも花柄長およびステム長が長く、着輪数も安定していることから、出荷における上位規格を満たしやすい（表2）。

表1 「さくやひめ」と基準品種の主な特性

品 種	さくやひめ	桜川	宮崎サニーピーチ
草 型	高性	高性	高性
節間長	長	長	長
花 形	ウェーブ	ウェーブ	ウェーブ
花 径	中	中	中
花 色	旗弁 (JHS) (1002)	ピンク白 (0401)	淡黄ピンク (1002)
	翼弁 (JHS) (1002)	ピンク白 (0401)	淡黄ピンク (1301)
花柄の長さ	中	中	中
一花房あたりの花数	3～4輪	3～4輪	3～4輪
開花習性	春咲き性	春咲き性	春咲き性

表2 「さくやひめ」と基準品種の1株当たり収量および切り花形質

品種名	株当たり切り花本数(本/株)		切り花形質			
	切り花本数	うち出荷 <sup>1)</sup> 本数	花柄長(cm)	ステム長(cm) <sup>2)</sup>	着輪数(個) <sup>3)</sup>	開花輪数(個) <sup>4)</sup>
さくやひめ	31.5 ± 2.8 <sup>5)</sup>	27.3 ± 4.0	41.9 ± 3.2	32.7 ± 2.7	3.7 ± 0.2	3.5 ± 0.2
桜川	37.5 ± 2.4	36.7 ± 3.1	39.3 ± 3.0	30.7 ± 2.4	3.6 ± 0.2	3.6 ± 0.2
宮崎サニーピーチ	21.8 ± 4.8	11.6 ± 5.2	33.9 ± 5.6	28.9 ± 4.6	3.9 ± 0.2	2.6 ± 0.7

注 1) 落蕾が無く第1小花までの花柄長が20cm以上, 小花数3以上の花  
 2) 第1小花までの花柄長 3) 着輪した花蕾数 4) 開花した小花数 5) 平均値±標準偏差

#### 4. 難落蕾性

難落蕾性は、採花期間をとおして着輪数と開花輪数を調査して評価を行い、これを繰り返すことで選抜を行った。採花本数のうち落蕾本数を1割程度に抑えることを目標に、複数年にわたって評価している。

形質が固定した後、2019年度～2021年度に行った落蕾本数の調査結果を表3に示している。「さくやひめ」の落蕾本数は1株当たり5本以下であり、難落蕾性の形質を有する交配親の「桜川」と差がないことから、難落蕾性を有すると評価した。

#### 5. 品種名

本品種を含め、宮崎県総合農業試験場で育成した品種は、栽培地域を宮崎県内に限定しており、県のオリジナル品種として国内市場および海外へも出荷されている。

そこで、本県が育成したスイートピーは、県にゆかりのある品種名を付け、宮崎県育成品種としての差別化と本県ブランドとしてのPRを行っている。

「さくやひめ」は、宮崎県が日本神話の天孫降臨の地として、多くの神話・伝説が伝承され、県内各地で神楽が奉納されていることにちなみ、神話に登場する「コノハナサクヤヒメ」に由来している。「コノハナサクヤヒメ」の咲き誇るような美しさと、力強く生き抜いた姿にあやかって、長く愛される品種になるようにという意味が込められている。

表3 「さくやひめ」と基準品種の株当たり落蕾本数

品 種	2019年度	2020年度	2021年度
さくやひめ	4.3±2.1 <sup>1)</sup>	1.7±7.4	4.0±3.0
桜川	6.7±5.8	2.1±1.5	0.6±1.0
宮崎サニーピーチ	10.4±5.3	13.4±7.4	9.9±4.7

1) 平均値±標準偏差



写真1 「さくやひめ」

#### 6. おわりに

宮崎県総合農業試験場では、花色の市場性、巻きひげのない省力性、良日持ち性、難落蕾性などの、一つの優れた形質を有する品種育成を行ってきた。

今後は、これらの形質に耐暑性を加え、優良な形質を複数有する品種育成を目標に、選抜に取り組んでいく。

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂5805

(たむら みずさ)